

佐久市駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業 自己評価報告書

評価日 平成30年10月10日

団体名	望月小唄保存会		
事業名	郷土芸能普及事業		
対象経費	1,015,590円	支援金交付対象経費	254,590円
支援金額	127,000円		

事業の目的・内容	目的
	内容

目的
佐久市望月地区は過疎地域と言われ、人口も減少しているが、市での空家バンクの取組みなどもあり、近年新しくこの地に住む人も増えてきた。住民の支え合いという観点から、地域の一体感は重要で、それには地域の伝統的文化を通じた交流が大きな意味を持つと考えた。望月小唄は中山晋平の作曲で、90年の歴史を持ち、望月の特色ある自然や歴史が唄い込まれており、多くの人に親しまれてきたが、それを新住民や子どもたちにも広め、さらに全国に発信することを通して、地域の活性化に寄与するべく、この事業を企画した。

内容
1、望月小唄誕生90周年記念「第1回望月小唄祭り」の開催
望月地区内外の文化団体(約20団体)に呼びかけ、実行委員会をつくって準備をすすめた。平成30年7月8日(日)望月駒の里ふれあいセンター、参加者は400人を超え、会場に入りきらなかった。(1)ポスター・チラシの図案を望月小学校・望月中学校の全児童生徒から募集し、入賞者には当日会場で表彰した。(2)区長会・商工会・新住民の連絡会などの協力を得て、特に近年新しく望月に住むようになった新住民や、望月以外の佐久市在住者に参加を呼び掛けた。(3)プロの演奏家の指導を得て、改めて望月小唄の歌い方などの水準を高めた。(4)この企画を通して地域の文化団体の新たな絆が生まれた。(5)望月小唄90年の歴史や望月小唄保存会の活動を紹介するスライド(パワーポイント)をつくり、上映した。(6)専門家と望月小唄保存会の指導で、正調の望月小唄の歌と踊りを来場者全員(子供からお年寄りまで)でレッスンし、そのための事前練習も行った。(7)中山晋平の曲で手話ダンスを指導した。
2、望月小唄90年の歴史を綴った写真集と歌詞の解説を載せた冊子発行
望月小唄祭り来場者、小中学校、図書館、その他希望者に配布した。発行部数1000部、

事業の活動実績
望月小唄まつりで、マルシェは地域の商工会、飲食店組合などから10数店舗が出店し、午前中でほとんど売り切れるほどの盛況だった。記念公演は会場に入りきらないほどの観客が集まり(400人以上)、作ったプログラムは足りなかった。20団体ほどが出演し、コラボを組んで演奏もし、地域の文化団体の交流にも役立った。子供や若者の参加も多かった。冊子「望月小唄90年の歴史」は好評で、祭りが終わった後でも問い合わせが多く、多方面で活用されている。



事業の成果・効果
1、ポスター・チラシの図案を望月小学校望月中学校の生徒から募集し、子どもたちへの関心が高まった。2、子供たちの関心が高まり、子ども実行委員会が生まれ、祭り当日はトークショーやフィナーレの踊りにも参加した。3、区長会、商工会など、幅広く呼びかけ、望月地区内の新住民や望月地区以外の佐久市民も多く参加した。参加者は400人を超えた。望月小唄を広める上で、大変に役立った。4、当日のマルシェには10団体が参加し、望月特産の味噌かつ丼弁当なども早くに売り切れた。特産品の宣伝にも効果を上げた。5、プロの演奏家の指導を得て、地区内の4つの合唱団が合同で中山晋平の歌を歌ったり、演奏家と保存会のコラボで望月小唄を演奏したり、望月地区内の文化団体の交流が大変深まった。6、望月の歴史や望月小唄誕生から90年の歴史などをパワーポイント(スライド)のまとめ、解説付きで当日上映した。地域の歴史を学ぶ機会にもなり、他の機会でも上映の希望があり、上映した。7、正調の望月小唄の唄と踊りを多くの人に知っていただき、また覚えてもらった。8、「望月小唄90年の歴史」という冊子を編集し、1000部発行した。祭り当日配布したが、多方面からの問い合わせがあり、多くの人たちに見ていただけだ。図書館や学校にも贈呈した。

自己評価	事業は申請どおり実施できた	①できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	①できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ ②多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2、3と答えた場合のみ) 舞台照明、冊子編集の委託料が必要となり、報償費の予算を必要な金額だけ委託費に振り替えた。
	その他、評価すべき点等	この事業で得られた世代を超えた住民のつながりは、今後の地域づくりの大いに役立つと思われる。この機会に研究し、冊子にまとめた「望月小唄90年の歴史」は、今後学校や文化サークルなど、さまざまなところで活用されると思われる。

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開
望月小唄祭り実行委員会は、来年度も継続し、郷土の文化を幅広く取り上げていく場としたい。プロの演奏家と望月小唄保存会がコラボしたフィナーレは他からも上演の希望があるので、さまざまな機会に上演したい。(すでに協和地区文化祭で上演した)。冊子「望月小唄90年の歴史」とスライドは、さまざまな機会に活用していきたい。

佐久市駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業 自己評価報告書

		評 価 日	平成30年10月10日
団 体 名	望月小唄保存会		
事 業 名	郷土芸能普及事業		
対象経費	1,015,590円	支援金交付対象経費	254,590円
支援金額	127,000円		

事業の目的・内容	目的
	<p>佐久市望月地区は過疎地域と言われ、人口も減少しているが、市での空家バンクの取組みなどもあり、近年新しくこの地に住む人も増えてきた。住民の支え合いという観点から、地域の一体感は重要で、それには地域の伝統的文化を通じた交流が大きな意味を持つと考えた。望月小唄は中山晋平の作曲で、90年の歴史を持ち、望月の特色ある自然や歴史が唄い込まれており、多くの人に親しまれてきたが、それを新住民や子どもたちにも広め、さらに全国に発信することを通して、地域の活性化に寄与するべく、この事業を企画した。</p>
事業の目的・内容	内容
	<p>1、望月小唄誕生90周年記念「第1回望月小唄祭り」の開催 望月地区内外の文化団体(約20団体)に呼びかけ、実行委員会をつくって準備をすすめた。平成30年7月8日(日)望月駒の里ふれあいセンター、参加者は400人を超え、会場に入りきらなかった。(1)ポスター・チラシの図案を望月小学校・望月中学校の全児童生徒から募集し、入賞者には当日会場で表彰した。(2)区長会・商工会・新住民の連絡会などの協力を得て、特に近年新しく望月に住むようになった新住民や、望月以外の佐久市在住者に参加を呼び掛けた。(3)プロの演奏家の指導を得て、改めて望月小唄の歌い方などの水準を高めた。(4)この企画を通して地域の文化団体の新たな絆が生まれた。(5)望月小唄90年の歴史や望月小唄保存会の活動を紹介するスライド(パワーポイント)をつくり、上映した。(6)専門家と望月小唄保存会の指導で、正調の望月小唄の歌と踊りを来場者全員(子供からお年寄りまで)でレッスンし、そのための事前練習も行った。(7)中山晋平の曲で手話ダンスを指導した。 2、望月小唄90年の歴史を綴った写真集と歌詞の解説を載せた冊子発行 望月小唄祭り来場者、小中学校、図書館、その他希望者に配布した。発行部数1000部、</p>

事業の活動実績
望月小唄まつりで、マルシェは地域の商工会、飲食店組合などから10数店舗が出店し、午前中でほとんど売り切れるほどの盛況だった。記念公演は会場に入りきらないほどの観客が集まり(400人以上)、作ったプログラムは足りなかった。20団体ほどが出演し、コラボを組んで演奏もし、地域の文化団体の交流にも役立った。子供や若者の参加も多かった。冊子「望月小唄90年の歴史」は好評で、祭りが終わった後でも問い合わせが多く、多方面で活用されている。



事業の成果・効果
1、ポスター・チラシの図案を望月小学校望月中学校の生徒から募集し、子どもたちへの関心が高まった。2、子供たちの関心が高まり、子ども実行委員会が生まれ、祭り当日はトークショーやフィナーレの踊りにも参加した。3、区長会、商工会など、幅広く呼びかけ、望月地区内の新住民や望月地区以外の佐久市民も多く参加した。参加者は400人を超えた。望月小唄を広める上で、大変に役立った。4、当日のマルシェには10団体が参加し、望月特産の味噌かつ丼弁当なども早くに売り切れた。特産品の宣伝にも効果を上げた。5、プロの演奏家の指導を得て、地区内の4つの合唱団が合同で中山晋平の歌を歌ったり、演奏家と保存会のコラボで望月小唄を演奏したり、望月地区内の文化団体の交流が大変深まった。6、望月の歴史や望月小唄誕生から90年の歴史などをパワーポイント(スライド)のまとめ、解説付きで当日上映した。地域の歴史を学ぶ機会にもなり、他の機会でも上映の希望があり、上映した。7、正調の望月小唄の唄と踊りを多くの人に知っていただき、また覚えてもらった。8、「望月小唄90年の歴史」という冊子を編集し、1000部発行した。祭り当日配布したが、多方面からの問い合わせがあり、多くの人たちに見ていただけだ。図書館や学校にも贈呈した。

自己評価	事業は申請どおり実施できた	①できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	①できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 自己評価を記入
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ ②多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2、3と答えた場合のみ) 舞台照明、冊子編集の委託料が必要となり、報償費の予算を必要な金額だけ委託費に振り替えた。
	その他、評価すべき点等	この事業で得られた世代を超えた住民のつながりは、今後の地域づくりの大きいに役立つと思われる。この機会に研究し、冊子にまとめた「望月小唄90年の歴史」は、今後学校や文化サークルなど、さまざまなところで活用されると思われる。

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自已診断です。

今後の事業展開
望月小唄祭り実行委員会は、来年度も継続し、郷土の文化を幅広く取り上げていく場としたい。プロの演奏家と望月小唄保存会がコラボしたフィナーレは他からも上演の希望があるので、さまざまな機会に上演したい。(すでに協和地区文化祭で上演した)。冊子「望月小唄90年の歴史」とスライドは、さまざまな機会に活用していきたい。